京師松原街東、及南都、般若坂有癩坊、（祝允明猥談曰、今南中有癩人處、官置癩坊、以居之、）歲首、中元、歲晚三節、癩人相率來坊市、各戶索米、不與則罵詈、此不獨此方、按吳震方嶺南雜記曰、潮州大麻瘋極多、官爲立麻風院、如養濟院之設也、在鳳皇山上、聚麻瘋者其中、給以口糧、有麻瘋頭治之、其名惡胡、衣冠濟楚、頗能饒富、人家有吉凶之事、瘋人相率登門索食、少則罵詈、必先賂亞胡、求片紙粘門、瘋人卽不敢肆、院中有井名鳳皇井、甘冽能愈疾、瘋者飲之卽能不發、肌肉如常、若出院不飲此井、卽仍發矣、入院游者、瘋頭特設淨舍淨器以欵之、其中男女長成自爲婚匹、生育如常人、瘋女飲此水、面目倍加紅潤光彩、設有登徒犯之、次日其女宿病已去、翩然出院、而登徒侵染其毒、卽代其瘋、不數日眉鬚脫落、手足麻痺肢節潰爛而死矣、（癸辛雜識後集曰、閩中有所謂過癩者、蓋女子多有此疾、凡覺面色如桃花、卽此證之發見也、或男子不知而誤與合、男染其疾、而女瘦土人既皆知其說、則多方詭作以誤往來之客、杭人有豁供申者、因往莆田道中遇女子獨行、頗有姿色、問所自來、乃言爲父母所逐、無歸、因同至邸中、至夜與甫交際、而其家聲言捕姦、遂急竄而免、及歸遂苦此疾、至於墜身塔鼻斷手足、而殂、癩卽大風疾也、）

〔賤者考〕伊勢物語にかたゐ翁とある類是なり、さるを今癩病者を、カツタヰといふより、此病者の事と心得るはひがごとなり、さる惡疾などの者、世に忌嫌はるゝより、ひとしく悲田院施藥院に入て乞食となりし故に、揔名にていふなり、此病者のみの稱にあらず、或說に此惡疾を漢土にて害大風といふ、故に害大の意なりなどいへど、中々にわろし、さやうに物遠き名を昔はとり出ていふことはなかりし事なり、適似たるにこそあれ、そは偶中なりと、玉かつまにも辨あり、五雜俎に、癩病者に戲れて、大風起兮眉飛揚、何得壯士護鼻梁、と作れる事など見ゆ、又或人この悲田院の事にて思ふに、前條にある夙といふも是類にて、もと宿疾の者などを疎みて、宿といひしにはあらぬかといへり、按ずるに、其あたる所はさもあるべけれど、宿の名義を宿疾の宿といふより出ると見るは、少し物遠く聞ゆ、されど其意は遠からじ、昔より此惡疾は忌み來れば、裔を他につたへざる爲に、郭外に出して別居せしめし制の殘りてにや、洛東の物吉といふ村は、癩病人のみ居る地にて、常は他にいでず、いさゝかの耕耘、又草履草鞋などを作る、正月のみ一度づゝ洛中を巡